



丸火自然公園のようす

助けあう植物

植物の住みわけ

公園で最も目につく樹木はコナラです。そのなかに、エゴノキ、シテの類、ヒメシャラ、リョウブなどがまじっています。これらの木の下には、アセビ、ツリバナ、ガマズミ、ヤマツツジ、クロモジなどの背たけの低い木があり、さらにその下には、コウヤボウキ、タマアジサイ、ハナイカダなど、もっと下には、カリヤスの類や、スゲの仲間などの草がはえています。

林のなかでは、このように背の高いものと低いものがお互いに住みかをわけあって生活していることがわかります。これを住みわけといいます。

植物は、背の高さだけではなく、林の内部と周辺部、かわいた所と湿った所、というように、いろいろの条件にあわせて、お互いに少しづつゆずりあい、助けあって生活しているのです。

森林を守る着物

うっそうと茂った森林も、背たけの低い植物で、まわりが守られています。これが森林を守る着物の役目をもった仲間たちで、マント郡落とか、ソテ郡落と呼んでいます。

マント郡落は、いくらか背の高いウツギ、マメザクラ、ミヤマボタなどの低木や、クズ、ノブドウ、ヘクソカズラなど、つる性の植物の集まりです。これらは、日光のあたる林のへりにはえる植物で、これらの植物がはえることによって、森林内部の適当な日照や風通し、温度が保たれるので、森林にとっては、切り離すことのできない仲間です。

「世界農林業センサス」の

ポスターと標語を募集

農林水産省は、来年2月実施される「世界農業センサス」の宣伝用ポスターと標語を募集します。

ポスター、標語の送り先及び締切

- ポスターは、8月27日までに静岡市追手町9-6 静岡県生活環境部統計課へ
- 標語は、9月3日までに東京都目黒区目黒2-11-14 財団法人 農林統計協会へ

マント郡落の、すそのおさえの役目をしているのが、ソテ郡落で、ヤエムグラ、アカネ、イタドリなどの草が見られます。



道ばたの植物 (人里植物)

ソテ郡落の植物のなかには、家のまわりで見られる種類もあります。これが、人里植物とか、雑草と呼ばれている仲間で、植物を人とのつき合いの程度によって、わけて名づけたものです。

田畑にはいりこんで作物と競争しているものを雑草、人のはいりこまないような所に育つものを野草(やそう)おもに道ばたなどに多い種類を「人里植物」と呼んでいます。

公園内の広い道路沿いには、これらのどの仲間も見られます。野草としては、ホタルブクロ、ヤマハハコ、リンドウなどが、人里植物としては、カゼクサ、オオバコクサイなどがあります。



丸火自然公園の林の内部

コナラ、クリ、リョウブなどの高木層の下にミツバツツジ、イヌツゲなどの低木が生えている。

表紙のことは

市民の要望を实地に調査し、行政に反映しよう…と毎年実施している「市長の管内行政視察」が、7月23日から5日間にわたり行われました。

視察した個所は120カ所で、道路・河川などがほぼ半分を占め、市民が特に生活環境整備の早期実現をのぞんでいることがわかります。

この結果、予算のないものについては、緊急度や事業効果を考えながら順次、予算をつけて整備、促進してまいります。